

投稿規程

平成27年7月4日改正

1. 総則

- 1) 本誌に投稿する著者（共著者を含む）は日本顎口腔機能学会会員に限る。ただし、編集委員会が特に認めたものはこの限りではない。
- 2) 原稿の種類は原著論文、臨床報告、口演後抄録、特集記事、総説、連載講座、視点、トピックスとする。口演後抄録は学術大会での発表内容を記録するものである。総説、連載講座、視点、トピックスは編集委員会の依頼によるものである。
- 3) 原稿の内容は顎口腔系の諸機能に関するもので、他誌に未発表のものに限る。
- 4) 投稿された原稿は、原則として編集委員会で査読する。なお、口演後抄録は査読を行わない。
- 5) 原稿の採否、掲載順序は、編集委員会が決定する。

2. 倫理規定

- 1) ヒトを対象とした研究は、「ヘルシンキ宣言」の倫理的原則に従って行われていること。「臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省）」に準拠し、所属施設の倫理委員会ないしそれに準じた機関の承認を得たものであり、承認した倫理委員会等の名称が明記されていること。被検者あるいは患者からインフォームドコンセントが得られており、その旨が明記されていること。
- 2) 個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法令や関連の指針に従うこと。固有の名称等、個人情報は匿名化されていなければならない。もし、匿名化が困難な場合は、あらかじめ被検者あるいは患者の同意を得なければならない。
- 3) 動物を対象とした研究は、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（文部科学省）」ならびに所属施設の動物実験に関する指針に則ること。
- 4) 著作権に関する法令や条例を遵守すること。他者が作成した図表、文章などを引用する場合は出典を明記しなければならない。

3. 利益相反

本文の文末に利益相反に関する事項を記載しなければならない。

4. 原稿の投稿

- 1) 投稿原稿は電子ファイルとし、下記送付先宛にE-mailに添付して送付する。なお、編集委員会が認めた場合は、郵送による投稿を受け付ける。
- 2) 1編の印刷総頁は臨床報告で6頁以内、原著論文、特集記事、総説、連載講座、視点、トピックスで10頁程度とする。口演後抄録は2または4頁とする。なお、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。雑誌の体裁はA4版の2,256字詰めであり、1頁につき400字詰め原稿用紙5枚を目安とする。
- 3) 掲載された投稿原稿、表、図は原則として返却しない。

5. 証明書等の発行

- 1) 編集委員会に到着した日付で原稿の受付を確認する文書を発行する。
- 2) 掲載する巻号を記入した論文掲載証明書は採用が決定した後に発行する。

6. 著作権

- 1) 本誌に掲載された論文、記事、抄録の著作権は本学会に帰属する。
- 2) 本学会が必要と認めた時や、著者あるいは外部からの申請があった時は、編集委員会が審議し、転載、複製、公衆送信等の著作物の利用を許諾することがある。

7. 掲載料および別刷

- 1) 基本掲載料を原著論文、臨床報告は1頁6,000円とする。ただし原著論文の印刷総頁が10頁を超過した場合、超過した頁については1頁10,000円とする。なお、表、図、写真、トレース、文字の写植、カラー写真、ならびに著者の責任による組み替え料は著者負担とする。
- 2) 別刷は50部以上とし、費用は著者負担とする。ただし、依頼原稿は無料とし、別刷100部までを贈呈する。

8. 校正

著者校正は原則として初校のみとする。組み版面

積に影響を与えるような加筆，変更は認めない。

9. 原稿の様式

投稿原稿は次の様式に従って執筆する。準拠しない原稿は加筆，訂正を申し入れる。また却下する場合がある。

- 1) 原稿は，口語体，新かなづかい，A4判横書きとする。
- 2) 記載は表題，著者名，所属，抄録，キーワードおよび本文とする。
- 3) 表題が30字を越えるものは，ランニングタイトル（30字以内）も記載する。
- 4) 上記以外は「投稿の手引き」による。

10. 原稿送付先

日本顎口腔機能学会雑誌編集委員長宛とする。

〒770-8504

徳島県徳島市蔵本町3-18-15

徳島大学大学院医歯薬学研究部

顎機能咬合再建学分野

松香 芳三 宛

E-mail : matsuka@tokushima-u.ac.jp

TEL : 088-633-7350

FAX : 088-633-7391

投稿の手引き

平成21年4月11日改正

日本顎口腔機能学会雑誌への投稿では、投稿規程のほかは本手引きに準拠する。

1. 原稿の構成

投稿する原稿の構成は以下のとおりである。

- 1) 投稿票
学会ホームページからダウンロードしたファイルを用いて、表題、著者名、本文原稿枚数、表枚数、図枚数、別冊希望部数、連絡著者名と連絡先（住所、電話番号、FAX番号、E-mail）を記入する。
- 2) チェックリスト
学会ホームページからダウンロードしたチェックリストのすべての項目についてチェックを行った後、著者（複数の場合は代表の1名）が署名を行う。
- 3) 和文表題（40字以内）、（ランニングタイトル（30字以内））、著者名、所属
- 4) 英文の表題、（ランニングタイトル）、著者名、所属
- 5) 和文抄録（600字程度）、和文キーワード（5語以内）
- 6) 英文抄録（300-400words、和文抄録の内容に合致させる。）、英文キーワード（5 words 以内、用語（小文字）、略語（大文字））
- 7) 本文原稿（下段中央に頁数を記す）
- 8) 表と図の説明
- 9) 表、図

2. 電子ファイルの作成

- 1) 投稿時
 - (1)本文、図表とも原稿をPDFファイルに変換したものを送付する。
 - (2)投稿票とチェックリストはそれぞれ単独のファイルにする。なお、チェックリストは署名済みのものをPDFファイル化する。
 - (3)本文部分（上記項目「1. の3）～8）」は番号順に並べ、1つのファイルにする。
 - (4)図表のファイルは本文と分離する。図表ごとに分けたファイルにしても構わない。
 - (5)PDFファイルに変換できない場合には、編集委員長に問い合わせる。
- 2) 論文採択決定後
編集作業用の電子ファイルを提出する。その際の

ファイル形式は以下のとおりとする。

- (1)原稿は、MS-Word ファイル、またはテキストファイルとする。
- (2)表は、MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint ファイルあるいはPDFファイルとする。
- (3)図はJ P E G, B M P, T I F F, G I F, P D F, あるいはMicrosoft PowerPoint ファイルのいずれかの形式とする。写真の解像度は白黒、カラーとも300dpi以上、線画は1200dpiとする。写真と線画を両方含んだ図は600～1000dpiとする。

3. 投稿原稿の書き方

1) 論文の記述様式

- (1)原稿の大きさはA4判で、1頁1200字（40字×30行）とする。上下左右の余白は25～30mmとする。図表の頁以外は、通しの頁番号をフッタ部分に付ける。
- (2)論文を分けて発表する場合には、主題の次に第1報あるいはIと書き、その内容を具体的に表す副表題を付記する。
- (3)原則的な論文の構成を以下に示す。臨床報告など内容により多少の変更は可。
I. 緒言、II. 研究方法（材料と方法）、III. 結果（成績）、IV. 考察、結論、謝辞など、文献の順とする。
- (4)見出しは次の順に項目をたて、行の最初の画をあげる。
I, II, III, IV
 1, 2, 3, 4
 1), 2), 3), 4)
 (1), (2), (3), (4)
 a, b, c, d
 a), b), c), d)
 (a), (b), (c), (d)
- (5)使用文字
文字の大きさは12ポイントで、全角または半角を使用する。飾り文字、特殊文字、拡大文字、外字等は避ける。
- (6)数字
 - a. 数字は算用数字とし、すべて半角で入力する。
 - b. 数字を含む名詞、形容詞、副詞（例：十二指腸、三角形など）は日本数字とする。
 - c. 単位は原則として国際単位系の基本単位、補助単位および組み立て単位を使用する（温度は摂氏を使用する）。

(7)外国語

- a. 外国語はすべて原綴りとし、表題を除き文頭に あたっても大文字を使用しない。
- b. 英文では英文フォントを使用し、半角で入力する。スペースも半角にする。
- c. 英文の改行に際しては、word で区切る。
- d. 微生物、動植物などの学名はイタリックとし、最初の文字だけは太文字で書く。

2) 文献の記載様式

- (1)本文で引用した順序に一連番号を付して列記し、本文の末尾に記載する。同一箇所複数引用した場合は年代順とする。
- (2)著者名は姓、名（外国人はイニシャルのみ）の順とする。
- (3)共著の場合は筆頭者を含めて3名まで記して、4人目以下の共著者は、「ほか」または「et al」と略す。
- (4)引用文献の表示は原著の表示に従う。英文の場合は、文頭の語の頭文字のみ大文字とする。
- (5)雑誌文献引用の記載は次の方式による。
 - a. 雑誌論文は著者、表題、雑誌略名、発行年（西暦表示）；巻：頁－頁、の順に記載する。ただし、頁は通巻頁とする。
 - b. 雑誌の略誌名はMEDLINEあるいは医学中央雑誌における略誌名を用いる。略誌名が不明の場合は、略さずに全名称を記載する。
 - c. 原書あるいは原論文がえられずに引用する場合は、末尾に（から引用）と付ける。
 - d. 投稿したが未発刊の文献は末尾に投稿中、掲載予定と記載する。

例：1) 長谷川成男, 藍 稔, 河野正司ほか. 下顎限界運動における全運動軸の立体的測定. 補綴誌 1975; 19: 434-443.

2) Palla S, Ash Jr MM. Power spectral analysis of the surface electromyogram of human jaw muscles during fatigue. Archs Oral Biol 1981; 26: 547-553.

(6)単行本文献引用記載は次の方式による。

- a. 単行本は著者、書名、発行地：発行者；発行年、頁－頁、の順に記載する。
- b. 単行本の書名は略記しない。

例：3) 河村洋二郎. 歯科学生のための口腔生理学. 京都：永末書店；1966, 158-232.

4) Basmajian JV, De Luca CJ. Muscles alive. Baltimore: Williams and Wilkins; 1985, 1-222.

(7)分担執筆の単行本文献引用記載は次の方式による。

分担執筆の単行本は分担執筆者：分担執筆の表題、編者または監修者、書名、巻などの区別、発行地：発行者；発行年、頁－頁、の順に記載する。

例：5) 石岡 靖, 山鹿卓郎. タッピング (tapping) 運動と筋電図. 石岡 靖, 小林義典, 長谷川成男ほか編, 顎口腔機能分析の基礎とその応用. 東京：デンタルダイヤモンド社；1991, 166-175.

6) Rowlerson AM. Specialization of mammalian jaw muscles: Fiber type compositions and distribution of muscle spindles. In: Taylor A, editor. Neurophysiology of the jaws and teeth. London: Macmillan; 1990, 1-55.

(8)翻訳書文献引用記載は次の方式による。

翻訳の単行本、論文は著者（翻訳者）、書名（翻訳書名、発行地：発行者、発行年、頁－頁、）、発行年の順に記載する。

例：7) Mohl ND, Zarb GA, Carlsson GE, et al. (藍 稔). A textbook of occlusion (テキストブックオクルージョン. 東京：クインテッセンス出版, 1993, 295-310.), 1998.

3) 表と図の書き方

- (1)表と図は原則として1枚ずつの用紙に作成し、用紙の右下端に著者名、図または表番号を明記する。トレースを希望する図は「要トレース」と右肩部に朱書きする。
- (2)写真は原則として手札判程度に作成し、右下端に著者名、図番号を明記する。
- (3)表、図（写真を含む）とも記載希望寸法（「1/2縮小」、「幅：片段」、「幅：両段」等）を用紙の右肩部に朱書きする。カラー刷りの希望の場合はその旨を明記する。
- (4)表と図（写真を含む）は本文中で引用順に、表は表1、表2・・・、図（写真を含む）は図1、図2・・・のように一連番号を付けて、本文の最後に綴じる。
- (5)表の番号と説明文は表の上部に付ける。長い説明文は下部に記載する。
- (6)図の番号と説明文は図の下部に付ける。
- (7)本文への挿入箇所は本文右欄に朱書きする。
- (8)表、図の説明文は和文と英文を併記する。
- (9)表は原則として下記のスタイルとし、必要に応じて

===== (二重線)			
項目	項目	項目 (細線)
項目			
項目			
.			
.			
===== (細線)			
*P < 0.01 etc.			

て細線を引く。

4. 倫理規定関連の法令, 指針等

本誌投稿規程の「2. 倫理規定」に関連して, 下記の法令, 指針等に従うこと。

- 1) ヘルシンキ宣言 (<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>, 日本医師会による日本語訳; http://www.med.or.jp/wma/helsinki08_j.html)
- 2) 医学研究に関する指針一覧 (厚生労働省, <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>)
- 3) 臨床研究に関する倫理指針 (厚生労働省, 平成20年7月31日全部改正, <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/rinsyo/dl/shishin.pdf>)
- 4) 個人情報の保護に関する法律 (平成15年, <http://www5.cao.go.jp/seikatsu/kojin/kaisetsu/index.html>)
- 5) 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針 (平成18年文部科学省告示第71号, http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/06060904.htm)
- 6) 著作権法 (<http://www.cric.or.jp/db/article/a1.html>)
- 7) 著作権制度に関する情報 (http://www.bunka.go.jp/chosakuken/index_2.html)

5. 投稿の方法

- 1) 投稿先
日本顎口腔機能学会雑誌 編集委員長宛とする。
- 2) 発送にはE-mailを用いる。発送する電子ファイルについては「項目2. 電子ファイルの作成」を参照。
- 3) 論文採択決定後, 編集作業用の電子ファイルを提出する。
- 4) 原稿をE-mailで送付できない場合は編集委員長に連絡し, CDの郵送など代替りの方法を用いる。
- 5) 郵送の場合は, 宅配便または書留郵便とする。

CDはプラスチックケースに入れ厳重に梱包する。発送前に必ず電子ファイルのバックアップをとっておく。

6. 校正

- 1) PDFファイル形式の校正用原稿を電子メールで著者に送付する。校正は日本工業規格 (JIS Z8280-1965) に準拠して行う。
- 2) 校正を終了した原稿は, 電子メールもしくはファックスで速やかに返送する。

投 稿 票

日本顎口腔機能学会雑誌

第 卷 第 号 令和 年 月 日

論文種別（該当するものを□で囲んで下さい。）

原著 ショートペーパー 臨床報告 特集記事 連載講座 視点 トピックス その他

和文表題： _____

著 者 名： _____

原稿枚数（表題，文献，抄録を含む）： _____ 枚

表枚数： _____ 枚

図枚数（写真含む）： _____ 枚

別刷希望部数： _____ 部

連絡先

氏 名： _____

住 所：〒 _____

電 話： _____ F A X： _____

E-mail： _____

投稿前チェックリスト（日本顎口腔機能学会雑誌，平成27年7月4日改正）

〔 確約あるいは同意する場合は□にチェックを入れて下さい。 〕
〔 本投稿原稿に関係がない項目には「N/A」と記入して下さい。 〕

論文表題： _____

- 著者はすべて本学会員ですか。
- 他誌に未発表のものですか。
- ヒトを対象とした研究は，ヘルシンキ宣言の倫理的原則に従って行われていますか。
- 所属施設の倫理委員会ないしそれに準じた機関の承認を得ており，承認した倫理委員会等の名称が明記されていますか。
- 被検者あるいは患者からインフォームドコンセントが得られており，その旨が明記されていますか。
- 個人情報の保護に関する法令や関連の指針に従っていますか。
- 固有の名称等，個人情報は匿名化されていますか。
- 匿名化が困難な場合は，あらかじめ被検者あるいは患者の同意を得ていますか。
- 動物を対象とした研究は，関連の指針に則っていますか。
- 著作権に関する法令や条例を遵守していますか。
- 他者が作成した図表，文章などを引用する場合は出典を明記していますか。
- 原稿はA4判横書きとし，40字×30行（1頁1,200字）としていますか。
- 表題は40字以内で，30字を超える場合はランニングタイトル（30字以内）を付けてありますか。
- 論文形式は投稿規程と投稿の手引きに準じていますか。
- 本文の末尾に利益相反に関する事項が記載されていますか。
- 本文に頁番号が入れてありますか。
- 文献は引用順となっていますか。
- 文献の記載は投稿規程と投稿の手引きに準じていますか。
- 表と図（写真を含む）では，用紙の右下端に著者名，表あるいは図の番号を明記していますか。
- 表，図（写真を含む）の記載希望寸法を右肩部に朱書きしていますか。
- 図（写真を含む）のカラー刷り，図のトレースなど，希望の場合はその旨を記載してありますか。
- 表と図の挿入箇所を本文右欄に朱書きしていますか。
- 英文は，ネイティブのチェックを受けましたか。
- 原稿の電子ファイルは投稿の手引きの「電子ファイルの作成」に従って作成されていますか。
- 本論文の著作権を日本顎口腔機能学会に譲渡することに同意しますか。
- 著者全員が上記チェック項目を確認した上で，本原稿の投稿を承認しましたか。

年 月 日 チェック者氏名（自署）_____